



© David Straker

バックパックを背負った犬は、仕事をしているという使命感を持つ



私が働く犬のシエルターでは、アダプションを希望する人に対してカウンセリングをします。アダプション希望者には、これまでに犬を飼っていたことがある人が多いので、私は必ず「愛犬にどのくらいの運動をさせていましたか? それはどんな運動ですか?」という質問をするようにしています。それは、私がこの質問を「飼い主の犬に対する理解度と責任感」を計るための重要な基準と考えているからです。郊外の戸建てに住む飼い主からの回答には、「フェンスで囲まれた裏庭に放しているの、犬は毎日自由に走り回っているし、時々、一緒にボール遊びをします」といったものが多いのですが、これは「悪い」回答ではありませんが、私には「合格点」は出せません。こつとした飼い主には、自宅の裏庭で放しておくだけが犬の運動というケースが多いため、私はすかさず「お散歩は?」と尋

ねます。そこで毎朝夕、決まったスケジュールで外を散歩するという飼い主は「合格!」。一方、散歩をせずに裏庭だけが愛犬の運動場という飼い主に対しては、私の長い講義が待っています。

日々の散歩の重要性

犬を飼ったら飼い主は、祝日や天候に関係なく365日休むことなく、毎日30分から1時間の散歩を1日2回以上する必要があるのです。なぜ、散歩がそんなに重要なのでしょうか? 社交性の強い犬にとつて毎日近所を散歩することは、人間の我々が新聞やテレビ、インターネットから様々な情報を得ているようなものなのです。家の周辺に残っている様々な匂いを嗅ぐことで脳を刺激し、情報を集めます。また従来、好奇心旺盛な動物である犬は、身体と脳を進ませるという行動によって大きな満足感を得ます。そして、何よりも大切な散歩の要素は、飼い主と犬との関係作りです。犬にとつて、飼い主との毎日の散歩ほどわくわくするものはないのです。散歩という探検旅行と一緒に色々なものを発見、遭遇する喜びが絆を深めるのに役立ちますし、また、飼い主はリーダーとしてその探検の旅をしっかり導くことにより、愛犬から信頼と尊敬を得られるのです。「だが日々の散歩くらいで...」と思っているのは人間だけ。毎日の散歩が彼らの寿命を左



てらくちまほ

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニング

に関わると共に、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供しつつ、13歳になるピットブル、ジュリエットとニュージャーシーで楽しく生活中。ご意見・ご感想は: info@doggieproject.com

もし、愛犬のエネルギーが有り余っていて、日々の散歩以上の運動量が必要という場合は、散歩の時にバックパックを背負わせるというのも1つの手です。犬用バックパックがありますので、その中に少し物を入れ、負荷を加えて背負わせます。そうすると、何も背負ってない時よりもエネルギーを消費しますし、仕事をしているという使命感を犬に与えることができるため、精神的にも満足度が高まるのです。

トレッドミル(ランニングマシン)を使った運動は犬の集中力を養ったり、また天候不良のために犬が運動不足になったりした時に大変便利ですが、安全のために最初はプロの指導を受けてから活用する方が良いでしょう。レトリバーやハントイング系の犬種は物を追いかけて持つてくるという行動を大変好むので、囲いのある広い場所でボールなどを取ってこさせる遊びを日々の運動に混ぜてあげましょう。

犬を飼うことは肉体的にハードですが、飼い主も規則正しい生活が送れ、運動不足が解消されます。それを犬と暮らす特典と考えて、健康的な生活を送りましょう。

次回は、とてもデリケートなテーマですが、シエルターで長年犬のレスキュー活動に携っている一人として「捨て犬の「安楽死」について取り上げたいと思います。

寺口麻穂

ドギーパラダイス!

犬と人間の快適な生活

第11回

犬の運動

その他の運動方法

右するといつても過言ではないことを忘れないでください。